

令和7年度 伊丹市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

◎医療・介護・地域支援サービスの連携を図るためのネットワークの構築および強化

- ・専門職間のつながりと今後の体制づくりを検討する「認知症ケア多職種研究会」の開催
- ・認知症ケアに関わる専門職を対象とした「認知症ケア多職種協働研修」の開催
- ・地域ケア会議における専門的な見地からの助言
- ・認知症初期集中支援チームの活動支援
- ・市内の認知症疾患医療センターとの連携による事業の拡大
- ・認知症かかりつけ医や認知症専門医、市外の認知症疾患医療センターとの連携による個別支援

◎認知症の人やその家族への早期支援を目指した相談支援体制の構築

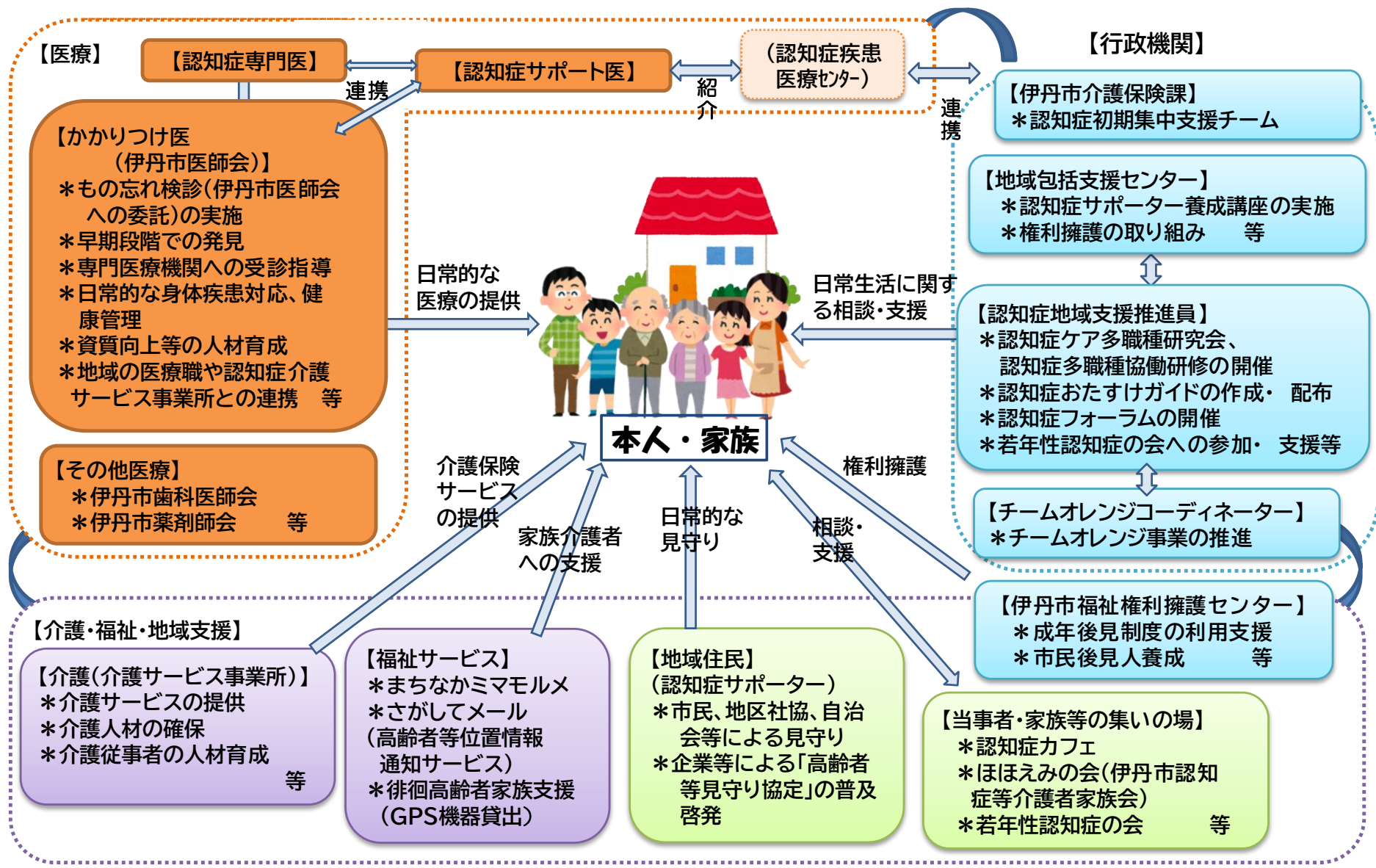
- ・認知症カフェの立ち上げ支援および本人や家族支援の検討
- ・当事者会、家族会、ボランティアグループとの連携および活動支援

◎地域への普及・啓発事業の企画および実施

- ・市内全域を対象とした認知症サポーター養成講座の実施
- ・認知症キャラバンメイトや認知症サポーターの活動創出およびフォローアップ
- ・市民を対象とした認知症フォーラムの開催

報告者氏名: ●伊丹市地域包括支援センター 認知症地域支援推進員 田中 友紀
●伊丹市 介護保険課 末次 真紀

【伊丹市】認知症施策全体図



① 認知症理解の普及啓発～本人の意思決定の大切さ～

令和7年7月2日(水)、「あなたの“想い”を大切に
～認知症の方の意思決定を支えるために～」と題し、**市民の方を対象**に研修を開催しました。

認知症になっても、自分の気持ちや希望を伝えながら、自分らしく生きていくことは大切です。とはいえ「**意思決定支援**」とは何か？と改めて尋ねられると、聞き馴染みが無かったり、難しく感じることもあるかもしれません。そこで、専門団体に講師を依頼し、**私たちそれぞれが出来ることを学びました。**



◎共催

「意思決定支援について理解を広める」という目的が一致したことから、伊丹市福祉権利擁護センターと協働で開催しました。

◎参加者(46名)

市報を見て申し込まれた一般市民の方はじめ、当事者会や家族会の参加者・ボランティアの方にも多数ご参加いただきました。

◎反響

専門的な言葉など、難しく感じる部分もあったようですが、基本軸として「まずは本人を知ることから始まる」「本人に“決定を求める”ことが目的ではなく、“意志を聴く”ことが大切だと分かった」等のご感想をいただきました。



②認知症サポーターステップアップ講座(12月25日)

チームオレンジの本格始動に向け、より活動者を増やすことに重きを置き、推進員、チームオレンジコーディネーター、ボランティアセンター職員と協力して開催しました。



※オレンジフレンズ→チームの登録メンバーの名称(伊丹市版)

講座内容

- 🍊 キャラバン・メイトによる講義(認知症状について)
- 🍊 「若年認知症の会ふらっと(当事者会・家族会)」と「オレンジカフェゆうかり」の代表からの活動紹介
- 🍊 ボランティア活動と登録・保険加入の案内
- 🍊 チームオレンジ活動の説明と登録呼びかけ

25名の方にご参加いただき、うち8名の方に個人登録、4組の活動団体の方に団体登録いただきました。

次年度も、各関係機関と協力しながら、認知症サポーターの方が、より深い学びを得て、具体的な活動に繋がっていくよう進めていきます。



最後に・・・

認知症事業を推進するにあたり、対象者は市民の方であったり、専門職であったり、地域の活動団体・企業などさまざまです。

情報発信も、講座・研修、イベント、パンフレット設置、インターネットなど色々な方法があります。

いずれにしても、実行するためには色々な部署・機関・団体と連携しており、認知症のご本人・ご家族が安心して生活できる地域を作るには、さまざまな立場の人を巻き込みながら進めていくことが必要だと改めて感じます。

また、推進員の役割にネットワーク構築があるように、日頃関わりのなかった団体や機関同士を繋ぐことで、地域の中で認知症のご本人を支える連携の輪が強くなるように思います。今後もその役割を意識しながら、事業を進めていきたいと思えます。